

調査審議事項1「ICTの活用により新宿フィールドミュージアムの情報発信を強化するとともに、多様な主体と連携し来街者向けの発信力を高めていくこと」について

【SFM】

- ・新宿のいろいろな文化芸術活動を区民が享受することがすごく大事ということで、そういう活動主体が集まれるプラットフォームを作ることからSFMは始まった。
- ・SFMという名称もコンセプトとしてはすばらしいが、聞いただけでパッとイメージするのが難しい。ディレクションというか、上手な見せ方が入れば広がっていく可能性をすごく感じる。
- ・ICTの活用は、プロデューサー的な人なり形なりがあると、さらに魅力が伝わるのではないかな。
- ・SFMのSNSの利用があまりに少ないのに驚いた。SFMを見ると新宿の文化はすごいと思わされるが、反面、SFMは訴求力がないと思う。
- ・SFMはある種日常的な文化だが、人を集めるのは非日常的な文化。幅広い文化がそこかしこにあることが新宿の非常に大きな魅力、エネルギーと思うが、その核となるものを考える。例えば池袋の東京芸術祭、六本木のアートナイト等いろいろな催しがある。いきなり大きなフェスティバルではなく、非日常的で祝祭的な何かを中心に据え、SFMの期間に「新宿に行ってみよう」と思わせないと、「これ、普通に新宿でやっているね」と、訴求力がないのではないかな。
- ・SFM文化月間に普通に新宿区へ来る中で、「こういうことやっているのだったら、少し足を延ばしてみようか」と、手の届くところに音楽、美術、演劇などいろいろなことがいつもあることを分かってもらえるエリアであると思う。
- ・SFMの歩き方的なものを広報的なところに挟むだけでも、足を延ばす方はかなり増えるのではないかな。どう情報を得て行動を起こすのかをもう少し研究すると、手法のヒントは見つかると思う。
- ・SFMの公式サイトは、見やすさよりも魅力をアップしなければならない。新宿の文化を単なる催事情報ではなく、価値ある情報として伝えないとアクセス数は上がらないと思う。
- ・サイトの魅力を高めると、参加者の参加度、情報を寄せてくる頻度も高まるし、SNSとの連携、フォローも上がると思う。SFMという新宿区の事業として、実際にできるのはそこかと感じた。
- ・SFMは6ビレッジに分けて分かりやすいが、どこでやるかよりも、音楽、美術、伝統芸能、歴史など分野別に分ける。加えて、行程図みたいなのもあるとうまく回れると思う。
- ・SFMの地域別にされているコンテンツをうまく因数分解しながら、分野別にも見せていく。その手法としてICTを活用するのがキーポイント。
- ・因数分解をICTでやれば、AI活用でいろいろとできる部分も多いのではないかな。
- ・全部を新宿区という行政機関がやるのは限界がある。区は、そういう因数分解をうまく伝えるための枠組みを作る部分をやる。中身の魅力を高めていくため、分野別である程度固まりながら、個々の分野について魅力を高める動きを促す。
- ・ディレクションを頼んでも全部やるのは無理なので、SFMの各文化団体を分野別に分け、同時に連携する仕組みも出すほうがよい。
- ・イベントだけではなく、地域別ではなく分野別で、明確なメッセージを出すことが必要
- ・SHIN-ONSAIはいろいろなメディアに取り上げられているので、SHIN-ONSAIを入口としてSFMに触れていただくのが最も効果的と思う。

【拡散】

- ・新宿に来られた人に、またいらしてもらう方向性でやり、リピートで来られた方にインフルエンサーみたいになってもらい、それが大きくなっていくのは大事と思う。
- ・新宿区が自ら発信するのは限度がある。各分野のインフルエンサーの協力を得て発信すると、効率的でもっと国内外に広がっていくのではないかな。発信の方向性をインフルエンサー向けに変えることも1つの方向性と思う。
- ・あるセグメントの100万人のフォロワーを持つ方と、5万人のフォロワーを持ついろいろなセグメントのマイクロインフルエンサーの方20人とでは、多様性がある後者にお願いするのがよいとの企業の話がある。
- ・職業的なインフルエンサーは問題もあり、参加者の協力を得ながらできるだけ新宿区もサポートして、新宿観光振興協会や先行しているセクションとも連携しつつやっていく。
- ・発信力だけ強化しても駄目で、何を発信するか「何を」が少し弱いのか、見えにくいのか分からないが、もう少し非日常的な何かがあるといいのでは。
- ・ICTは非常に動きが早いことと、今まで新宿区や参加者が出すプライマリーなインフォメーションに焦点が当たっていたが、今は拡散の時代。誰がどういう形で拡散するのか等はコントロールできないので、条件整備をきちんとして、まずはそういうことがしやすいようなところを固める。
- ・SFM協議会参加者にもっと積極的に情報発信をしてほしいが、現場は舞台を作るなど活動に非常に手間がかかり、発信するコスト（時間、お金、スキル）がかけられない。質の高いコンテンツを作ることが難しい団体も多い。そういうことも考えて、サポートができるような条件整備を行う。

【新宿の歴史・文化】

- ・普通に人が行き来する中に西口広場という空間があることは非常にユニークで、片やSFMはまち全体がミュージアムというコンセプトが伝わりにくいことが難しいところだが、そこが逆に非常にユニークであることを新宿区としては大切に、その資産を生かすことが新宿の大きなブランディングにもつながる気もする。プロデューサーを立てるよりも、そういう視点自体が、新宿区の文化の捉え方の独自性につながるのではないかな。
- ・新宿でいろいろなイベントがあるのと同時に、普段使うもの、特にイベントとかとは意識しないものが実は重要な文化、発信源であることを知る必要がある。
- ・音楽会や展覧会等イベントは大事だが、それだけではなく日常生活と非常に関わりがある。それをどう生かしていくかは大変重要で、行政でもいろいろ考えていただきたい。
- ・何かイベントをやるとか、ある地区が大事とかは当然だが、日常のものが実は大変な文化の発信力を持っている。

【外国人関係】

- ・新宿区の外国人割合は13%位だが、SFMガイドブックでは多文化に該当するものは1つしかない。外国人の発信力はすごいので、新宿多文化共生プラザや外国人の団体等も巻き込んで発信できれば、もっと賑わう本来のダイバーシティにつながる活動になると思う。
- ・特に外国の人にいろいろなことを発信すると同時に、その外国の方が発信源になって、いろいろと発信することができる形になっているかは、1つの重要な視点だと思う。
- ・東京フィルハーモニー交響楽団の現状は、主催公演等はほぼ満席状態で、外国人が2割以上を占めるのではないかな。それには伏線があり、2000年からプログラムを全部日英多言語表記にしている。
- ・来場できない方にチケットの寄附をお願いし、留学生の団体に提供する。空席の有効活用もあるが、彼らが母国に帰った際に発信してくれるようなことが少しずつ浸透してきた。
- ・SOMPO美術館では、英・中・韓の3か国語でアートカードを作りながらアプローチする形で、一部の言葉だけでも、ある程度外国の方も日本人の子どもと同じような形で対応できることが大分見えてきている。
- ・SOMPO美術館では、美術の主な解説のQRコードを読めば、6言語の自動翻訳ができる。AIの進化はあると思う。
- ・子どもたちの文化へのアクセスの問題などを考えると、多文化へのアクセスの強化が非常に重要。

【子ども・若い人】

- ・今、子どもの体験格差もすごく社会問題になっている。一市民団体としてできることは、アウトリーチ的なことや、届きづらいところに届けること。大人の文化参加は、好みやお金を使うこと自体が選択肢になりアプローチするが、子どもは公共的なアプローチの文化体験が必要ではないかな。
- ・子どもにも発信すると同時に発信された子どもが自覚しないで発信源になる。それが芸術、文化の重要なポイントになるという意見は大変参考になると思う。
- ・SOMPO美術館は、新宿区の小中学生への対話型鑑賞教育を12年間支援している。本当に小さいときに一度体験することが、大人になってからも非常に大きいと思う。美術館に来た経験を職員が尋ねるが、ほとんど親が連れていけない状況だと理解していて、やはり子どもに来ていただく、美術だけではなく文化に接するのは重要だと思う。
- ・内閣府の国民意識調査では「心の豊かさを求めますか、まだまだ物の豊かさを重視しますか」と質問し、直近30年位は心の豊かさを求める人が6割以上と多かった。
- ・しかしコロナで急変し、令和5年11月の時点で、まだ物の豊かさを求めたいという人がもう物の豊かさはある程度充足したので心の豊かさを求めたいという人を上回った。
- ・特に10代～30代では「まだまだ物だ」という人達が6割以上いる。年代が上がると「心の豊かさ大事」と分かってくるが、若い人たちは厳しい条件にあることが心配
- ・子どもの貧困も非常に静かに進み、経済格差が体験格差、そしていわゆる非認知的スキルが十分に育たないまま社会に出なければいけなくなることもあると聞いている。
- ・これは文化施設や文化の問題を超えて、人間形成の問題。当然、文化にも関わってくる。それがものの形にも当然出てくる。

【費用負担】

- ・ループル美術館のように、お金を払える方からは費用を適切な価格で回収し、そうでない方々には、きちんとアクセスを確保するというメリハリをつけることもすごく重要と思う。
- ・日本では、ミュージアムは博物館法で実費相当分だけになっていたと思うが、経済格差もあり、人々の意識も変わった中、やはり心の豊かさが必要で、払える方からは適切な費用を回収していかないと無理かなとつくづく感じている。
- ・施設の使用料について、限られた財源の中での運営なら値上げも必要と思うが、公益性のある事業、又は弱者、子どもなどに対しては優遇措置があってよい。